

第20回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 開催要綱 ～重度重複と高齢の聴覚障害者の発達と権利を考える～ 実 施 要 綱

1. 主 旨

障害者権利条約が批准され、今年は「障害者差別解消法（略称）」がスタートしました。そこでは「不当な差別的取扱い」の禁止と「合理的配慮の提供」が公的機関に義務付けられています。一方、介護保険制度では制度維持を理由に要支援の方々は市町村事業に組まれ制度の利用がしにくく、自己負担が重くなる事態を招いています。

本集会は、ろう重複のなかまや聴覚言語障害者の福祉を高め発展させるために、それまでの「いこいの村研究交流集会」を発展させ、全国的に広く連帯者を増やそうと再出発し、今年で20年を迎えました。当初は、施設で働く職員の実践報告が中心の場でしたが、年々参加者層も広がり、分科会討議や交流の中でろう重複の問題や高齢の聴覚言語障害者の問題を全国的な運動の課題に掲げられるまでに発展しました。そして現在、手話言語法の制定に向けての運動が高まり、共存社会の実現や障害の有無に関係なく誰もが安心して暮らしていける社会の実現は、国民共通の認識になりつつあります。

当事者や事業所等で働く人たちの実態や要求、そして実践を持ち寄り、具体的な解決策を探究・提案してゆくこと、それを掲げた運動を強め広げていくことが重要です。

本集会では、実践や研究の交流を通して、

- ① 事業所における支援実践を持ち寄り交流し前進させる。
- ② ろう者の生活発達ニーズを掘り起こし、新たに事業所の創設を進めている地域での公的責任に基づく取り組みやその地域関係者を励ます。
- ③ 現在の制度における問題の提起と福祉予算の確保を目指す。

以上の3つの柱を基に全国のなかまとともに、重複・高齢聴覚言語障害者の発達と権利保障の前進に努めます。

2. 主 催

社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会

3. 共 催

社会福祉法人埼玉聴覚障害者福祉会／社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会／社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会／社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会／全国ろう重複児・者家族連絡会

4. 協 力

社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会／社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会／特定非営利活動法人つくし

5. 運 営

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会京都実行委員会

社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会

京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク

構成団体(順不同)(一般社団法人)京都府聴覚障害者協会／京都府難聴者協会／京都手話通訳問題研究会／京都言友会／京都盲ろう者ほほえみの会／(特定非営利活動法人)京都市中途失聴・難聴者協会／京都府立ろう学校PTA／京都府立高等学校教職員組合ろう学校分会／全国福祉保育労働組合京都地方本部聴言分会／京都府手話サークル連絡会／京都府要約筆記サークル連絡会／京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築く北部ネットワーク委員会／京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワークロ丹ブロック委員会／聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築く京都市ネットワーク聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築く乙訓ネットワーク委員会／京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク山城委員会

6. 後援（予定）

厚生労働省／京都府／京都市／京都府市長会／京都府町村会／京都府教育委員会／京都市教育委員会／（社会福祉法人）京都府社会福祉協議会／（社会福祉法人）京都市社会福祉協議会／（株式会社）京都新聞社京都新聞社会福祉事業団／（社会福祉法人）全国社会福祉協議会／（社会福祉法人）NHK厚生文化事業団／（社会福祉法人）読売愛と光の事業団／公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団／KBS京都／（社会福祉法人）朝日新聞厚生文化事業団／（一般社団法人）京都府身体障害者団体連合会／公益財団法人京都市身体障害者福祉団体連合会

7. 協賛（予定）

（一般財団法人）全日本ろうあ連盟／（一般社団法人）全日本難聴者・中途失聴者団体連合会／（一般社団法人）全国手話通訳問題研究会／（社会福祉法人）全国盲ろう者協会／（一般社団法人）日本手話通訳士協会／全国障害者問題研究会／（社会福祉法人）全国手話研修センター／きょうされん／障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会／全国ろう重複障害者施設連絡協議会／全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会／（特定非営利活動法人）全国聴覚障害者情報提供施設協議会／（特定非営利活動法人）ろう教育を考える全国協議会／全国ろうあヘルパー連絡協議会／全国聴覚・ろう重複児施設協議会／京都府耳鼻咽喉科専門医会／全国難聴児を持つ親の会／佛教大学／同志社大学

8. 開催期日 2016年11月26日（土）・27日（日）

9. 開催場所 佛教大学（京都市北区紫野北花ノ坊町96）

10. 開催規模 500名

11. 参加資料代 5,000円

※学生価格 3,000円 当日受付にて学生証の提示をお願いします。

12. 企画内容

開会全体会

《開会式》 記念企画

20周年記念講演「この国に生まれてよかった この時代に生きてよかった」

NPO法人日本障害者協議会代表

きょうされん専務理事

藤井克徳（ふじいかつのり）氏

《20周年特別講座》

全国各地に、暮らしを支える事業所（拠点）を広げていくために、何が必要かを考えあいます。

札幌から	札幌における取り組み 公益社団法人札幌聴覚障害者協会は、運動と事業の両立を掲げて、「ゆりかごから墓場まで」手話を使う聴覚障害者が安心して生活できるような仕組みを札幌市内に作っていくことを目指して取り組んできました。この10年間で札幌市内の各所に地域活動支援センター2か所、就労継続支援B型2か所、グループホーム、デイサービス、ホームヘルプと事業所を立ち上げてきました。2016年度には、ろう高齢者の「札幌で暮らし続けたい」という想いを受け、手話が通じて、安心して生活できる『住まい』、サービス付き高齢者向け住宅を開設します。また、介護が必要な方に支援ができるよう、地域の介護サービスの拠点となる小規模多機能型居宅介護事業所も併設します。利用者の暮らしの実態や願いをもとにどのように事業展開してきたのか。集まる場所ができて、利用者にとってどのような変化があったのか、また制度面で課題に感じたことなど報告いただきます。
------	--

滋賀から	滋賀における取り組み 滋賀県には、湖南地域に聴覚障害者センター（情報提供施設）や就労支援の事業所「びわこみみの里」などの拠点があります。この度、湖北地域に聴覚障害者の拠点施設を立ち上げるために、取り組み中です（今年10月に開所予定）。立ち上げに向けて、関係団体と事業体がどのように連携して取り組んできたのか、当事者の願いと共に報告いただきます。 また、「びわこみみの里」では、自立訓練事業や就労継続支援事業、就労移行支援事業、ジョブコーチなど各種事業を組み合わせ、聴覚障害者の就労支援に先駆的に取り組んできました。就労支援の現状と課題についても報告いただきます。
福島から	福島県における取り組み 東日本大震災から5年が経ちました。福島県内には、福島市に就労継続支援B型事業所「なのはなの家」と、郡山市に「地域活動支援センターけやき」の2か所があります。震災から6年目を迎えて、それぞれの地域での聴覚障害者の暮らしはどのような変化があったのか。各事業所での取り組みの現状を報告いただきます。
京都から	京都における取り組み 舞鶴市にある舞鶴市聴覚障害児放課後等デイサービスと、京都市にある京都聴覚障害児放課後等デイサービス「にじ」の実践や活動報告。また、児童や保護者の方々の声など、聞こえに障害のある子どもたちが生き生きと過ごせる場所として、その役割や重要性などを報告していただきます。
パネルディスカッション	『全国各地に暮らしを支える事業所（拠点）を広げていくために、何が必要か？』 4つの地域からの報告を踏まえてディスカッションを行います。会場からの積極的なご意見もお願いします。 メンバー：全日本ろうあ連盟福祉基本政策検討プロジェクトチームのメンバーによるパネルディスカッションです。現在の制度の課題や国に要望している内容、全国各地に事業所をひろげていくために必要なことをテーマに議論します。フロアからの質問・意見もお願いします。

《実践交流会》

内容 7つの分科会・分散会と特別分科会に分かれて、施設や事業所でのろう重複障害者や高齢聴覚障害者・聴覚障害児への援助実践や研究を持ち寄り、交流・議論を深めます。また、地域で暮らす聴覚障害者の福祉ニーズを取り上げ、専門的援助の必要性を明らかにし、地域での援助の今後の課題について考え、提起します。

☆詳細は、別掲分科会の案内をご参照ください。

閉会集会

特別講座パネルディスカッションから報告していただきます。

《引継ぎ》

次回集会への引継ぎと課題提起を行います。

《自主交流会》

参加者が発起人となり、職種や立場、課題別に集まって交流を深めます。（呼びかけを希望される方は、自主交流会申込書をご参照ください。）

《バザー》

全国各地の重複と高齢の聴覚言語障害者の事業所、関係団体で生産された自主製品等の展示販売を行います。（出店を希望される方は出店申込書をご参照ください。）

1 3 . 日 程 表

26日（土）			時刻	27日（日）				
特別講座	分科会	介助		特別講座	分科会	介助		
共同研究者・助言者 ・司会者打合せ 受付 12:00～ 開会式・基調報告 12:45～ 記念講演 (13:00～15:00) 移動(15:30まで) 20周年記念 特別講座 分科会 移動 自主交流会(自由参加) 17:30～18:30	保護者から の引継ぎ	介助 ・ 保育	9					
			10	20周年記念 特別講座	分科会	介助 ・ 保育		
			11					
			12					
			13				昼食休憩	
			14				20周年記念 特別講座	分科会
			15	閉会全体会 (移動含む)		保護者へ 引継ぎ		
			16					
			17	特別企画(別紙参照)				
			18	27日	28日	いこいの村聴覚言語障害センター (※27日閉会後出発 1泊2日)27～28日		
			19	27日	28日	京都府聴覚言語障害センター (※集会翌日28日集合日帰り)		
			20					

《開催地特別企画》お申し込みは、**コース1** **コース2**のいずれかひとつを選択してください。

コース1 いこいの村聴覚言語障害センター（京都府綾部市）

閉会式終了後、京都府綾部市にある「いこいの村」へご案内します。1泊して交流を楽しむ企画を計画しています。

コース2 京都府聴覚言語障害センター（京都府城陽市）

集会終了の翌日**11月28日（月）**に京都駅に集合していただき、昨年開所した京都府聴覚言語障害センターや就労支援施設をご覧ください。

※この特別企画の主催は全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会京都実行委員会です。詳細は別紙にてご確認ください。皆様のご参加をお待ちしております！！（特別企画申込書参照）

<連絡先>

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会事務局

社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会

〒604-8437 京都市中京区西ノ京東中合町番地2

FAX：075-841-8334／TEL：075-841-8338

Email：20thzenchofuku-j@kyoto-chogen.or.jp

担当：厚谷^{あつや}・澤井^{さわい}

第1分科会 労働と発達を考える

共同研究者	白石 恵理子 氏 滋賀大学教育学部教授	「働く」ということには、暮らしを支える収入を得る、なかま自らの生きがい、人々や社会とつながる等、様々な意味が含まれます。また、余暇やプライベートな時間の過ごし方が「人が豊かに働く」ことを支える大切な要素でもあります。 「働く」には多様な側面を含んでおり、なかまが働くことを支援する私たちにも様々な創意工夫が求められます。障害を持つなかまにとって、働くことの目的や意味とは何か。生きがい、目標や希望など、日々の支援の中でなかまが投げかけてくれる。そんな様子と様々な創意工夫を交流します。
助言者	小西 正 氏 公益社団法人大阪聴力障害者協会常任理事	

第2分科会 心とからだの健康づくり

第1分散会 こころの健康

共同研究者	河崎 佳子 氏 神戸大学教授発達科学部・ 神戸大学院人間発達環境学研究所	重複聴覚障害者の精神保健をテーマに、様々な職種の方が参加します。病院や事業所等での実践報告をもとに、様々な立場からの意見交換や討議が行われ、何が課題となっているのかを明らかにしてきました。 1) 専門機関との連携を図りながら、どのように重複聴覚障害者に対しアプローチしていくのか。 2) 重複聴覚障害者の特徴であるコミュニケーション面での問題を生育歴や環境等を理解した上でどのように援助していったらよいのか。参加者との意見交換を大切にしながら、現場でできることは何なのかを意見交流します。
助言者	中西 久美子 氏 社会福祉法人滋賀県聴覚障害者福祉協会事務局長	

第2分散会 からだの健康

共同研究者	片倉 和彦 氏 東京都西多摩郡・ 双葉会診療所所長	健康をテーマに多種多様な健康へのニーズをより深く見つめ直します。入所施設支援、通所施設支援、地域生活支援等のあらゆる場面で、当事者や支援者が抱えている「健康」に関する悩みや課題を交流します。「健康」は日常生活上の大きな関心事でもあります。「健康」に関わる支援の専門性を高められるよう努めます。
助言者	浅井 ひとみ 氏 一般社団法人京都府聴覚障害者協会会長	

第3分科会 コミュニケーションと集団づくり

共同研究者	竹沢 清 氏 中部学院大学非常勤講師・ 元千種豊学校教諭	「その人の分かる方法をつかむ関わり、その方法の施行錯誤、互いに伝わった時の喜び、それらを含めてコミュニケーションになる」わかる、伝わる、伝わった喜びを共有する等、コミュニケーションが成り立つことで集団（仲間）が生まれ、また、集団（仲間）の中からコミュニケーションが育ちます。 コミュニケーション保障と集団づくりの実践を交流します。
助言者	櫻井 貴浩 氏 一般社団法人和歌山県聴覚障害者協会事務局長	

第4分科会 高齢聴覚障害者のくらしを施設で支える

共同研究者	吉見 剛二 氏 社会福祉法人大阪聴覚障害者福祉会 あすくの里施設長	今までできていたことができなくなった時にどのような支えがあれば安心して暮らすことができるでしょうか。高齢聴覚障害者にとって、身体の麻痺や衰えは、身体的な能力低下に加えてコミュニケーションの能力低下にもつながってしまいます。 その人らしい人生を尊重し、生きる意欲を持っていただくための支援や介護について実践を交流します。
助言者	篠田 あゆみ 氏 一般社団法人京都府聴覚障害者協会福祉労働対策部長	

第5分科会 地域生活を考える

第1分散会 高齢聴覚障害者のくらしを地域で支える

共同研究者	廣田 しづえ 氏 全国ろうあヘルパー協議会 会長	高齢聴覚障害者が地域で暮らし続けるためには、地域や関係機関と連携した支援体制が必要になります。それぞれ地域の実践交流を中心に、高齢聴覚障害者が置かれてきた歴史的背景も含めて、「その人らしい地域生活」支援のあり方を考えます。 また実践の交流から、制度の問題点・課題を明らかにします。
助言者	福田 美枝子 氏 一般社団法人和歌山県聴覚 障害者協会会長	

第2分散会 重複障害者のくらしを地域で支える

共同研究者	林 智樹 氏 金城学院大学現代文化学部 福祉社会学科教授	重複聴覚障害児・者の地域生活に必要な資源は様々です。 地域での自立した生活を支援するためには、既存の資源に加えて、新しい社会資源の創出が必要になることもあります。どのような資源があれば、重複聴覚障害児・者が地域で豊かに暮らせるのか、また支援体制はどうあるべきかなどを実践交流から考えます。
助言者	三ツ谷 直子 氏 一般社団法人京都府聴覚障害者 協会副会長	

第6分科会 家族の願いと家族会

共同研究者	山口 慎一 氏 社会福祉法人埼玉聴覚障害者 福祉会常務理事	重複聴覚障害児・者の親、家族が抱える悩みや思いを交流し、親・家族の置かれている実態を明らかにします。また、悩みや思いを率直に出し合い共有することで、一人ぼっちで孤立する家族をなくします。学びを共有し、明日への希望につなぐ交流をつくります。
助言者	小林 泉 氏 公益社団法人兵庫県聴覚障害者 協会副理事長	

第7分科会 聴覚障害児の発達を考える

共同研究者	渡邊 健二 氏 特定非営利活動法人 つくし副理事長	少しずつ聴覚障害児向け放課後等デイサービスセンターなどが徐々に開所されてきています。しかし、その数を今後さらに増やしていく必要があります。また子どもたちの障害の多様化にともない、アイデンティティの確立への支援などもより重要になっています。未来を担う子どもたちのためにも今後の取り組みや問題点、課題について考えていきます。
助言者	内川 大輔 氏 一般社団法人京都府聴覚障害者 協会事務局長	

参加申し込みのご案内

1. 集会参加資料代 5,000 円

2. 昼食代（お茶付） 1,000 円 ※27 日（日）のみ昼食の注文を受け付けます。

3. 第 19 回報告集 1,000 円

昨年（2015 年）開催された兵庫集会の報告集です。分科会参加をご希望の方は、昨年度の到達点を報告集でご確認のうえ、ご参加ください。

4. 宿泊 本集会にかかわる宿泊案内は行いません。各自でお申し込みください。

また、集会当日は折からの外国人客の観光ブームと紅葉の時節柄、宿泊施設がかなり混み合い、予約がしにくい状況になることが予想されます。宿泊を希望される方々は早々の対応をお願いします。

なお、京都駅（JR・地下鉄）周辺や烏丸・河原町（阪急電車・京阪電鉄・京都市営地下鉄）周辺が比較的便利です。

5. 介助・保育

ご家族の参加を保障するために、別室にてろう重複児・者の介助及び幼児の保育を行います。ご希望の方は下記の内容をご了承のうえ、所定欄にご記入ください。

① 介助・保育料 1,000 円 （1 人 1 日当たり／おやつ、教材費、傷害保険等）

② 介助・保育時間 26 日（土）12：00～19：00

27 日（日） 9：00～16：00

※昼食介助はありません。ご家族と一緒にお願いします。

③年齢制限 ろう重複児・者の介助年齢上限はありません。

幼児保育でお預かりできるのは、3 歳以上就学前までに限ります。

③ その他 当日の介助・保育申し込みはお受けできません。

6. 参加申し込み方法

別紙申込書に必要事項をご記入のうえ、下記集会事務局に F A X かメールにてお申し込みください。盲ろうの方は、同封の「盲ろう者参加申込書」にてお申し込みください。

7. 送金方法 ※お振込みの締切は 9 月 30 日（水）です。

お申し込みと同時に郵便振替にて、諸費用をお振込みください。

振込み手数料はご負担ください。

振込先（郵便振替） 口座番号：00930-5-226772

加入者名：全 聴 福 研 京 都 集 会

※通信欄に費用内訳をご記入ください。

8. キャンセル 諸費用受領後のキャンセルはご返金できません。予めご了承ください。

9. 申込締切 2016 年 9 月 30 日（金）期日厳守（必着）

※レポート計画書締切日 8 月 31 日（水）、原稿締切日 9 月 16 日（金）です。

申し込み先 第 20 回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 事務局
〒604-8437 京都市中京区西ノ京東中合町 2 番地
京都市聴覚言語障害センター内
FAX：075-841-8334／TEL：075-841-8338
E メール：20thzenchofuku-j@kyoto-chogen.or.jp

分科会レポート募集

施設や作業所での日々の援助実践、また地域での取り組みの様子や聴覚障害者の支援課題の問題提起などをまとめ、討論を通して次への取り組みを明らかにするとともに、ニーズに基づいて先駆的に実践展開されている支援実践や研究成果の報告をお願いします。

参加者が共有し参考として持ち帰り、全国各地で支援を必要としている聴覚障害者への支援の輪を拡げるためにも、積極的にレポート報告をしてください。なお、レポート・報告資料（当日資料・写真・映像など）の作成に際しては、プライバシー保護に対する配慮をお願いいたします。

1. 開催要項を参考に、報告を希望する分科会（分散会）をお選びください。
2. レポート発表の時間は約 10 分とします。当日の発表は補足説明程度で終わるよう、レポート作成の際は、報告したいことや討論のポイント等をできる限りわかりやすくまとめてください。
3. まずレポート提出計画書を送付してください。分科会の中身づくりなど事前準備に使用します。

レポート提出計画書 締切：8月31日（水）【メール・郵送・FAX】必着

4. 次に、レポート原稿を以下の様式で作成し、送付してください。

- (1) レポートは 1~2 ページ程度にまとめ、

右記の書式で作成してください。

- (2) 原稿作成ソフトは word をご利用ください。

(困難な場合は事務局までご一報ください。)

- (3) 必ず分科会（分散会）、タイトル、所属、

執筆者名を記入して下さい。

- (4) 議論したい項目を実線で囲み、「キーワード」として挙げてください。

レポート原稿 締切：9月16日（金）

【メール or 郵送】必着

[illegible]

5. ご提出いただいたレポートは、「事前資料集」に掲載し、参加者全員に送付します。

- ## 6. 送信・送付先

〒629-1241 京都府綾部市十倉名畑久瀬谷2番地

いこいの村聴覚言語障害センター 内

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会事務局

担当：山内・前川

FAX 0773-46-0610 / TEL 0773-46-0101

E メール : zenhofukuken@kyoto-chogen.or.jp

- ## 7. 当日「補足資料」について

補足資料を配布する場合は、必ず当日までに事務局に了承を得て、分科会(分散会)参加者数分を、各自で準備しご持参ください。

- ## 8. 視聴覚機材の利用申込について

ビデオ、スライド、パソコン等の機器利用を希望される場合は、その旨をレポート提出計画書に明記し、事前に申し込んでください。（台数に制限がありますので、準備できない場合もあります。ご了承ください。）なお、集会当日に機材の利用申込はできません。

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会in京都 参加申込書

※該当する欄に、○及び必要事項をご記入ください。

ふりがな			男性		区分		必要な援助内容	
氏 名			女性			聴覚障害者		手話通訳
						健聴者		要約筆記
						ろう重複障害者		磁気ループ
住 所	〒				重複する障害		↓	その他
TEL		FAX		平日昼間の 連絡先	TEL			
					FAX			

所属機関			職種		役職名
	聴障団体関係				
	手 話 関 係				
	家 族 関 係				
	施 設 関 係				
	学 生				
	そ の 他				

※特別講座または分科会（第1・第2希望）のどちらかを選び○でご記入ください。

特別講座及び実践交流会（分科会・分散会）					第1希望	第2希望
特 別 講 座						
分 科 会	第1	労働と発達を考える				
	第2	心とからだの健康づくり	分散会1	こころの健康		
			分散会2	からだの健康		
	第3	コミュニケーション保障と集団づくり				
	第4	高齢聴覚障害者の暮らしを施設で支える				
	第5	地域生活を考える	分散会1	高齢聴覚障害者の暮らしを地域で支える		
			分散会2	重複聴覚障害者の暮らしを地域で支える		
	第6	家族のねがいと家族の会				
第7	聴覚障害児の発達を考える～聴覚障害児の支援や相談を通して～					

参加諸費用

	参加費	5,000円
	第19回報告集	1,000円
	27日 昼食代	1,000円
	特別企画（宿）	15,000円
	特別企画（日）	6,000円
	介助保育の申込	※別紙合計額を記入
		円
合計		円

事務局使用欄（処理日・印）							
番号				受付			
入力				受領			
※該当区分							
一般参加		司会者		要員参加		実行委員会	

申込書を事務局までご返信ください。

FAX 075-841-8334

Eメール 20thzenchofuku-j@kyoto-chogen.or.jp

参加諸費用を郵便振替にてご入金ください。

口座番号 00930-5-226772

加入者名 全聴福研京都集会

お申込にあたって、ご提出いただく個人情報等は、適正な利用範囲に限り使用いたします。

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会in京都 盲ろう者用参加申込書

※該当する欄に、○及び必要事項をご記入ください。

ふりがな		性別		必要な援助内容		
氏名		男性		触読手話通訳		その他
		女性		対面通訳		
住所		〒				
TEL				FAX		
所属機関				職 種		役職名
	聴障団体関係					
	手 話 関 係					
	家 族 関 係					
	施 設 関 係					
	学 生					
	そ の 他					

※特別講座または分科会（第1・第2希望）のどちらかを選び、○でご記入ください。

特別講座及び実践交流会（分科会・分散会）					第1希望	第2希望
特 別 講 座						
分科会	第1	労働と発達を考える				
	第2	心とからだの健康づくり	分散会1	こころの健康		
			分散会2	からだの健康		
	第3	コミュニケーション保障と集団づくり				
	第4	高齢聴覚障害者の暮らしを施設で支える				
	第5	地域生活を考える	分散会1	高齢聴覚障害者の暮らしを地域で支える		
			分散会2	重複聴覚障害者の暮らしを地域で支える		
	第6	家族のねがいと家族の会				
第7	聴覚障害児の発達を考える～聴覚障害児の支援や相談を通して～					

※実行委員会では通訳のみを配置します。それ以外の介助（ガイドヘルパー等）の必要な方は、各自でご手配くださるようお願いいたします。

参加諸費用

	参加費	5,000円
	第19回報告集	1,000円
	27日 昼食	1,000円
	特別企画（宿）	15,000円
	特別企画（日）	6,000円
	介助保育の申込	※別紙合計額を記入 円
合 計		円

事務局使用欄（処理日・印）		
番号	受付	
入力	受領	
※該当区分		
一般参加	要員参加	実行員会

申込書を事務局までご返信ください

FAX 075-841-8334

Eメール 20thzenchofuku-j@kyoto-chogen.or.jp

参加諸費用を郵便振替にてご入金ください。

口座番号 00930-5-226772

加入者名 全聴福研京都集会

お申込にあたって、ご提出いただく個人情報等は、適正な利用範囲に限り使用いたします。

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会in京都 介助・保育申込書

介助・保育対象者氏名	年齢	性別		申込者氏名		
ふりがな	歳	男性	女性	ふりがな		
介助時間	26日 (土)	:	~	:	27日 (日)	
障害の有無	聴覚 障害	健聴	ろう重複障害 (			
コミュニケーション手段	手話 絵	・ 身振り ・ 指差し ・ 口話 ・ 筆談 ・ その他 ()				
薬の有無 服用時の留意点	無 ・ 有 ()					
趣味・好みの遊び等						
おやつ好き嫌い アレルギーなど	無 ・ 有 ()					
対応上の留意点 その他の特記事項						

介助・保育対象者参加諸費用

	26日	介助・保育	1,000円
	27日	介助・保育	1,000円
		昼食代	1,000円
合 計			円

申し込み項目に○をご記入ください。

参加費用は、郵便振替にてご入金ください。
* ご兄弟、複数名の申込は、同用紙
を複写してご使用ください。

事務局使用欄 (処理日・印)	
番号	受付
入力	受領

左記、合計金額を集会申込書に転記して
介助・保育申込書ともに事務局へご返信
ください。

FAX 075-841-8334
Eメール 20thzenchofuku-j@kyoto-chogen.or.jp

お申込にあたって、ご提出いただく個人情報は、集会運営に限り適正に使用いたします。

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会in京都 出店申込書

施設名・作業所名・団体名		担当者氏名
FAX	TEL	
当日に持参する ・ 送付希望 ※11月25日午前必着		
○当日の販売責任者氏名	携帯TEL	
	携帯アドレス	

《出店の条件》

「第20回全聴福研」参加者であり、下記の所属団体であること

- (1) 全国ろう重複障害者施設連絡協議会加盟事業所
- (2) 全国高齢聴覚障害者福祉施設連絡協議会加盟事業所
- (3) ろう重複障害者事業所開設準備中の団体
- (4) その他聴覚障害者福祉関係事業所

※会場の都合により、多数の出店の確保をいたしかねます。その旨ご了承ください。また、販売スペースも限りがございます。場所などの配置も事務局で決めさせていただきますので、予めご了承ください。

《出店申し込み》

- (1) 申込書に記入して事務局まで送付ください。
- (2) 申し込み締め切り：2016年9月30日（金）必着

《物品の送付について》

- (1) 送付締切：11月25日（金）の午前中指定で下記まで送ってください。

京都市聴覚言語障害センター気付 全聴福研事務局宛

※詳細は、申込みの団体へ連絡させていただきます。

物品の事故・破損については、実行委員会では責任を負いかねます。
ご了解ください。

- (2) 集会終了後物品は各自でお持ち帰りください。
料金着払いで送付を受け付けます。

《その他》

- (1) 宣伝掲示、物品の陳列、販売、売上げ集計は、全て出店団体が行ってください。
- (2) 販売・陳列スペースは長机半分程度（60cm×90cm）を準備します。
- (3) 陳列・販売の準備は、26日（土）11時から始められます。
販売場所は全体会・分科会等開催する会館の1室を設ける予定です。
- (4) 特に制約はありませんが、価格表示をわかりやすくする、消費税は内税とする等、ご協力をお願いします。売上げは、各自でお持ち帰りください。

FAX：075-841-8334

Eメール：20thzenchofuku-j@kyoto-chogen.or.jp

自主交流会を開きませんか？

集会参加者が自主的に開催する「自主交流会」を企画しませんか。
「活動・運動を共にする全国の仲間と情報交換がしたい」、「同じ職種の仲間と仕事の悩みを語りたい」など、集いの機会を希望される方、事務局までお知らせください。会場の提供をさせていただきます

【例えば…】（※昨年度実施内容）

- ・聴覚障害者地域活動支援センター等
- ・児童発達支援・放課後などデイサービス
- ・聴覚障害職員 ・全国ろう重複児・者家族連絡会
- ・高齢聴覚障害者の在宅生活を支えるケアマネの集い

申込締切

交流会を希望される方は、参加申込書と合わせてこの用紙を事務局まで送信してください。
交流会の運営は発起人の方にお任せします。
ご了承ください。

9月30日

FAX:075-841-8334

Eメール: 20thzenchofuku-j@kyoto-chogen.or.jp

切り取らずそのままお申込みください。

ふりがな 発 起 人	所属団体・部署等
住 所 〒	
FAX	TEL
Eメール	
交流会名	
主な内容	

全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会

特別企画

「研究交流集会はじまりの場所へ」

2016年11月27日(日)～28日(月)

あやべ温泉

おいしい
山の幸で
乾杯♪



いこいの村で
待ってるよ～

いこいの村 見学・交流



石窯ピザ作り体験



バラジャム試食会

とても上品な
味で大人気！



参加費： 15,000円(宿泊費・食事代・交通費等)
申込締切： 2016年9月30日(金)(交流集会申込書にて)
定員： 25名

主催 全国聴覚障害者福祉研究交流集会京都実行委員

問い合わせ先 TEL 0773-46-0101 FAX 0773-46-0610
(前川・山内)

11月27日(日) 集会終了後、会場までバスがお迎えにあがります。

あやべ温泉に宿泊(夕食・朝食付き)

夜は美味しい料理で楽しく交流♪♪

11月28日(月) いこいの村の見学と交流。

「全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会」の前身である「いこいの村研究交流集会」の第1回が1984年に開催され、重複重度の聴覚言語障害者の発達と権利を考える集会として、1996年まで12回開催してきました。

集会の原点となったいこいの村の施設見学と交流です。

昼食は、たからの里で石窯を使ったピザ作り体験とバラジャムの試食です。

たからの里はいこいの村や地域から仲間が通い、石窯パンの製造と販売を行っています。バラジャムは、農薬を使わずに大切に育てたバラを使用しています。

お楽しみに・・・。

※お帰りは綾部駅までの送迎となります。

14:59綾部駅発 ⇒ 16:07京都駅着の電車にご乗車頂けるようにお送りさせて頂く予定です。

参加ご希望の方は交流集会参加申込書での申し込みと併せて、下記に記入頂き、「いこいの村聴覚言語障害センター」までFAXをお願いします。

FAX 0773-46-0610

全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会特別企画申込書

(ふりがな) 氏 名		・聴覚障害者 ・盲ろう者	・健聴者
住 所		☎又はFAX ()	
宿泊については合部屋となります。同室希望の方がいらっしゃる場合は氏名ご記入ください。(2人～8人)		同室希望者のお名前	
その他 ご意見・ご要望があればご記入ください。			

京都府聴覚言語障害センターと さんさん山城を見学！ (昼食付)

2016年11月28日(月)

参加費：6,000円 ※定員50名



指令その1

京都府聴覚言語障害センター

最新の聴言センターを目撃せよ！



京都府聴覚言語障害センター

オードブルランチ(和・洋)を食せ！



sunsun café(京都府聴覚言語障害センター内)

指令その3

さんさん山城

(聴覚障害者施設では唯一)
「ノウフク」モデル事業所とは？
調査せよ！

ノウフク

PROJECT

～農業と福祉がつながって日本を元気に！～

今、農林水産省と厚生労働省が
一体となって進めているプロジェクト

濃茶大福



指令その4

- ① 「濃茶大福」で宇治抹茶に酔いしれろ！
- ② えびいも掘りで泥まみれになれ！



【バスツアー行程表】

9:30～	京都駅集合・出発
10:30～	京都府聴覚言語障害センター・到着 京都府聴覚言語障害センターの概要説明
11:30～	館内見学
12:00～	オードブルランチ(sunsun café)
13:00～	京都府聴覚言語障害センター・出発
13:40～	さんさん山城・到着 ・濃茶大福、えびいもコロツケを食べながら、さんさん山城の ろう者、難聴者と交流 ・京都えびいも掘り体験(希望者のみ)
15:30～	さんさん山城・出発
16:30	京都駅・到着、解散

【京都府聴覚言語障害センター】

運営：社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会。
「京都府南部地域に聴言センターを」というスローガンのもと、地元のろうあ協会、難聴協会をはじめ聴覚言語障害者関係団体の長年に渡る運動の結果、2015年5月、開所。手話通訳者、要約筆記者、盲ろう者向け通訳介助員の養成・派遣などの聴覚障害者情報提供施設機能の他に、就労継続支援B型事業、自立訓練(機能訓練)事業、生活介護事業(2016年7月開始予定)も併設。センター1階の「sunsun café」では毎日ろう者、難聴者、盲ろう者のスタッフが働いている。

【さんさん山城】

運営：社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会。
就労継続支援B型事業所(2011年開所)。作業内容は農業、菓子の加工・販売、縫製、木工など。利用者はろう者、難聴者はもとより、近年は耳の聞こえる精神障害者も受け入れている。2015年、農林水産省と厚生労働省より、「農業、障害者福祉、地域連携」を先駆的に行っているモデル事業所として選出される(全国で9つ。聴覚障害者の施設では唯一)。「京都宇治茶」をはじめ、耕作放棄地を活用し、地域特産のブランド野菜「田辺茄子」や「京都えびいも」等を栽培、農協などに出荷している。

【申込先】

山城就労支援事業所「さんさん山城」 担当：岩井

FAX 0774-65-4102

※ 2016年9月30日(金)〆切

第20回 全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会 特別企画・申込書			
(ふりがな)		・聴覚障害者	・健聴者
氏 名		・盲ろう者	
住 所		TEL 又は FAX ()	
京都えびいも掘り体験 ※ 先着 15 人		希望します ※ 汚れても良い服装でお越しください	

アクセスマップ



新幹線でお越しの場合

JR 京都駅 → 千本北大路
(京都市バス 京都駅前 205・206・101 系統) 徒歩 3 分

JR・地下鉄二条駅

二条駅 → 佛教大学前・千本北大路
(京都市バス 二条駅前 6・46・206 系統) 徒歩 3 分

JR 円町駅

円町駅 → 千本北大路
(京都市バス 円町前 204・205 系統) 徒歩 3 分

私鉄（阪急・京阪）でお越しの場合

阪急大宮駅 → 佛教大学前・千本北大路
(京都市バス 四条大宮 6・46・206 系統) 徒歩 3 分

京阪出町柳駅 → 佛教大学前・千本北大路
(京都市バス 出町柳駅前 1・102 系統) 徒歩 3 分

佛
教
大
学

佛教大学（紫野キャンパス）
〒603-8301
京都市北区紫野北花ノ坊町 96